

はじめまして



循環器科(救急担当)

ほりお なおひろ
堀尾 直裕 先生

本年6月より救急担当医として、毎週水曜日にお世話になっております。現在は岡山大学心臓血管外科に所属し、先天性心疾患を中心に心臓外科手術や術後の集中治療管理をしています。

東京都出身で、大学卒業まで東京にいました。卒業後は沖縄、愛媛、高知、岡山などを転々とし、様々な研修をすることができました。特に子どもの心臓病治療に興味を持ったことから、今は岡山大学心臓血管外科で勉強しています。その中で、倉敷平成病院で週

1回ですが救急対応をさせて頂くことになりました。久しぶりの救急でしたが、やりやすい環境でどうか対応させて頂いています。

救急で思い出すのは、医師なりたての頃です。医師としての仕事が始まった初日が救急研修でした。診察した初めての患者さんは「虫垂炎」でした。

研修初日、先輩医師に「救急車来るから見てこい」と言われました。実践経験はほぼゼロであり、何をすればいいのか分からない状態です。

そんな中で、腹痛の患者さんが救急搬送され、振り返っても先輩医師は誰もおらず、本当に1人。救急隊からの報告も何となく聞き、どうしようと思っていると看護師さんから『採血は血算・生化でいいですね、点滴もつなぎますよ』と言われ、『はい、お願いします』と一言。

病歴を聞こうとしても小学生で、痛みが強くてまともな回答も得られず、そこで、看護師さんから『左下腹部を痛がっていますね。微熱もあるみたいです』と。ここで鑑別も上がらないのが医者1年生です。『急性腹症でCTとか撮り

ますか?』と言われ、『そうしましょうか…』と言っている内に先輩医師が来て、腹部エコー当てて『明らかにアッペだろ!』と一喝され、外科コンサルトとなりました。

その後も、看護師さんはじめ、回りのスタッフの言われるがままに動いていたのを思い出します。最近はやさしい方が多いですが、採血一つ頼むのも恐れ多い時期がありました。あるとき、自分で採血、末梢確保しようとしていた時に『採血なんかは私がしますから、先生、患者さん見て下さい』と言われた時にはやっと信用されてきたかなと嬉しく思ったのを思い出します。

倉敷平成病院の特色でしょうか。救急では意識障害・麻痺といった神経系救急が多い印象です。正直、一番苦手な分野ですのでとりあえず必要最低限の処置はできるようにとっています。不慣れな点も多いですが、ご指導よろしくお願ひします。

堀尾先生は毎週水曜日午前・午後・当直の救急外来を担当されています。

Doctor's Eyes